

第三海兵遠征軍司令官・沖縄地域調整官
エリック M. スミス中将 殿

宜野湾市長職務代理者
宜野湾市副市長 松川 正則

UH-1 へりの久米島空港への予防着陸について（抗議・要請）

平成 30 年 9 月 5 日、米軍普天間飛行場所属の UH-1 へりが久米島空港に予防着陸したと沖縄防衛局から報告を受けた。

普天間飛行場所属の米軍機による予防着陸事案については、昨年来、機種を問わず頻発しており、これまで本市として、事案が発生するたびに再発防止の徹底を要請しているにもかかわらず、同様な事案が続いている現状は決して看過できるものではなく、米軍の危機意識や安全管理体制に強い疑問を抱かざるを得ず、憤りを禁じ得ない。

本市のまちのど真ん中にあり、「世界一危険」といわれる普天間飛行場においては、いかなるトラブルであっても人命に関わる大惨事に繋がりがねず、市民は常に危険と隣り合わせの中、不安を抱えながら生活を送っている。十分な説明も無い中で、普天間飛行場所属機のトラブルが続いていることは、市民の不安をさらに増幅するものであり、断じて容認できず、不安の払拭のためには、実効性のあるこれまで以上の取り組みが必要である。

返還合意から 22 年、市民の基地負担は既に限界を超えており、このような現状が放置されるということは絶対にあってはならない。

については、9 万 8 千名余の市民の生命・財産、生活を守る立場から、厳重に抗議するとともに、下記の事項について強く要請する。

記

- 一． 度重なる普天間飛行場所属機の予防着陸事案について、原因究明及び再発防止を徹底して図るとともに、市民の不安を払拭するため再発防止に向けたプロセスを速やかに公表し、十分な説明を行うこと
- 一． 普天間飛行場に所属する全ての米軍機について、整備状況など安全管理体制の総点検を実施し、改めて安全確認を厳格に行うこと
- 一． 問題の抜本的解決に向け、市民・県民の悲願である普天間飛行場の一日も早い返還と、5 年以内運用停止をはじめとする返還までの間の危険性除去及び基地負担軽減を早急に実現すること